

ねらい

・安心して、身の回りの準備を済ませ、毎日の読書時間に意欲をもって取り組む。

ポイントと
幼児期とのつながり

- ・幼児期に経験した手遊びや絵本を楽しみ、幼児期の生活とのつながりを創り、安心感やドキドキ・ワクワクした楽しい気持ちになるようにする。(子ども)
- ・1年生の担任が幼保の保育者との連携で、子どもの発達にふさわしい環境や子どもへのかかわりを学ぶ。(教師)

実践内容

【子どもが意欲をもって読書時間に取り組むための絵本や手遊びを選ぶポイント】

- ・絵本を一人で読んだり、見たりする習慣がない子どももいるため、ストーリー性のあるものより、見て楽しい絵本・ことばあそびの絵本を保育者と相談しながら選ぶ。
- ・手遊びなども、安心できるよう幼保で経験してきたであろうものや、発達に合った内容のものを選ぶ。



手遊びのリズムに合わせて、体を揺らし、自然と座席に座り先生の方を向きます。



絵本を見やすい環境にすることで、子どもたちは身を乗り出して話を聞いています。



担任の先生と近い距離で読み聞かせ

入学後から、5月の第2週までの毎週金曜日の朝の時間帯を幼保の保育者による読み聞かせとして、計4回実施した。1回目には、まだ新たな環境に慣れていない子どもも、幼児期に経験したような手遊びのリズムに合わせて体を動かし、自然と座席に座り、安心して絵本に視線が集まっていた。子どもたちの興味のある絵本を選ぶことで、身を乗り出して話を聞く姿もあった。2回目、3回目になると読み聞かせを楽しみにしていた子どもは、登校後の身の回りの準備も、絵本の読み聞かせの時間までに終わっておこうと意識するようになり、椅子に座って読み聞かせを待つようになった。読み聞かせが終わった後も、担任の話や朝の健康観察に落ち着いた様子で臨むことができた。保育者の温かな雰囲気感触、親しみを感じ、スタートカリキュラムの時期、子どもたちは金曜日に楽しみに登校していた。

取組を振り返って

子どもが、安心して登校し、絵本の読み聞かせを楽しみに目的意識をもって、朝の準備を主体的に行い、クラスでの活動に落ち着いて臨むようになったことは大きな成果と考える。また、教師も子どもの発達にあった絵本の選び方や環境の設定を学ぶことができた。課題としては、今回は幼稚園の絵本を借りたが、同じような1年生入学当初の発達に合った絵本が学校図書館には少なく、子どもが自ら見たり読んだりして楽しめるような本が足りないということである。学校図書の充実や幼稚園との本の交流も検討していきたいと考えている。